

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野852-1		
自己評価作成日	令和4年1月18日	評価結果市町村受理日	令和4年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2170200642-00&SerViCeCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天津風で現在力を入れている事は面会で、今はコロナにより面会が制限されている為、ご家族様にLINE登録していただき、オンライン面会をできるようにして少しでも関わりが持てるようにしている。他には医療連携を充実させ、グループホームでは珍しい看取りもさせていただいている。日々のサービスについても、週2回の入浴しか無い施設が多い中、少しでも多く入れるようにしている。感染対策としては、日々の消毒、体調管理、研修、面会の制限、面会時の対応など毎日チェックリストに記載しながら対応している。木造建築の為、防災訓練にも力を入れている。真夏と真冬以外は毎月避難訓練を実施し、全職員が対応できるようにしている。職員のレベルの均一化を図る為、キャリア段位制度を取り入れ、OJTに力を入れている。職員の定着の為介護業務の簡素化を目指し、すぐろくというペーパーレスの記録媒体を導入した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

身体拘束の廃止について、定期的に委員会や研修会を行い、毎月の会議で具体的な事例を話し合い正しく理解できるように取り組んでいる。事業所内に「身体拘束のない介護」を掲示して事業所の方針を明確にしている。夜間も含めて看護職員を配置し緊急時の対応が出来るように配慮している。全職員が利用者の担当としてモニタリングや家族、医師の意見を反映させた介護計画の素案を作成している。カンファレンスで話し合い職員のアイデアを反映させた介護計画を計画作成担当者がまとめている。コミュニケーションツールを活用して職員間でいつでも、どこでも情報を共有することができ、職員が一丸となって取り組んでいる事業所である。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝申し送りの時に唱和し共有している。一人ひとり個別ケアに努めている。	申し送り時に理念を唱和したり、事業所内に掲示したりして共有している。職員は、利用者のペースを大切にして、丁寧な言葉掛けや笑顔で接することを心掛けて理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人が職員に居たり、以前近くの方が働いていたが、退職した後も庭の手入れをして下さる。散歩のときはご近所さんと立ち話をする。	コロナ禍前は、地域の保育園児が事業所を訪問し交流していた。近所の方より鮎の甘露煮や鮎雑炊をいただいている。地域の方が廃品回収に事業所を訪れたり、職場体験を受け入れたりして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほぼ活かしていないが、2ヶ月に一度この様子を載せた、天津風便りを地域の回覧板にてのせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在会議はしていないが、書面開催として報告はしてそれに対する意見をいただいて、サービス向上に活かしている。	書面で会議を開催し事業所の状況や行事などを報告し、意見を返送してもらっている。事業所の活動内容や雰囲気をつかえるようにしたいと意見があり「天津風だより」を同封しているが、議事録等を公表することができていない。	事業所の取り組みについて、地域や家族の方に理解や協力を得るためにも議事録を積極的に公表できるように取り組んで欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が行う研修会に参加したり、電話やメールでやり取りして協力関係を築くように努めている。	市主催の研修会に参加して情報交換している。書類や避難確保計画など分からないことは市の担当者に確認しながら作成している。入居者の状況報告やアンケートなど市の担当者とメールで連絡している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を予防する提示物を貼り、身体拘束廃止委員会で職員に対する研修会も行い、意識してケアにあたるようにしている。	契約時に事業所の方針を家族に説明している。廊下等に事業所の方針「身体拘束のない介護」を掲示している。定期的に委員会や研修会を行い、毎月の会議で具体的な事例を話し合っている。日常的に身体拘束について職員間で情報交換を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の標語を施設内に貼り、職員に対する研修会も行い、予防に努めている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、過去には活用できるように支援した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をしっかりと行い、不安等の解決に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの為面会ができない時は、ZOOM面会や電話で状況を伝えたり介護プランに意見を書いて頂き職員間でシェアしている。	家族に電話した時に利用者の近況や状態を伝えて意見や要望を聞いている。家族から利用者同士が触れ合っていて欲しいと要望がありレクリエーションを工夫している。テレビ電話やガラス越しの面会など家族の意見を反映し取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで、意見を話し合い解決に取り組んだり、職員面談をして意見や提案を聞いている。	管理者は職員の意見を大切にすることを心掛けている。定期的に面談を行い職員から意見や悩みなどを聞いている。コミュニケーションツールを活用して意見を出し合っている。利用者が楽しめる行事や献立、職務内容など職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が持っている能力を協議して解決に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には必ずOJTをしっかりと行い、喀痰吸引、リーダー研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナでリモートの勉強会は行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に入居者や家族から話を聞き、その情報をスタッフ間で共有している。その後実際の状況を見ながら再度本人の困っていることを聞き安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査により情報を収集している。その後は電話やラインなどで今の状態や要望などを聞きコミュニケーションを取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査により情報を収集し、その後は歩き回る入居者様は拘束しない様に声掛け、見守りをする等本人の意図を汲むよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中は洗濯たたみ、洗い物など出来る事をやっていただき、本人のやる気を引き出すよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子や思いを家族の方に伝え、ラインを活用して、写真も送り情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防で、面会を中止していたが、家族の方とはライン登録して頂きTV電話でリモート面会実施。	コロナ禍の中でも利用者の友人が急に来所された時は玄関先で面会してもらっている。孫やひ孫とオンライン面会が出来るように職員が支援している。今年度は利用者が書いた年賀状を家族に出した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのソファで休んで頂く時は、入居者同士のトラブルに発展しないように職員が間に入り見守りコミュニケーションが円滑に行われる様に配慮し、一人で過ごす時間も大切にしつつ孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中に亡くなられた方に四十九日と一周忌の法要にはお供えとして、花を送らせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者様には個別ケア担当者をもうけていて、日々コミュニケーションを取っている又、本人と家族との連携を常に保つように努めている。	入浴やトイレ、リハビリなど1対1になった時に利用者から思いや意向を聞いている。テレビや新聞の広告を見て思いを聞くこともある。耳の不自由な方にはホワイトボードを使って筆談にて聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問をして、家族にこれまでの生活歴を聞き、本人に合う介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリング、アセスメント見直し、カンファレンスで話し合い。より良いサービスを行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、排泄チェック、入浴時の身体の状況のチェック、食事等日々のADLの変化の把握とその情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様に個別ケア担当者があり、本人や家族からの要望などをかなえられる様にし、MCSIにて情報を共有している。医師の意見も参考に介護計画も作成している。	選出された職員3名が定期的にモニタリングを行っている。利用者の担当が家族や医師の意見、モニタリング等を参考に介護計画の素案を作成している。カンファレンスで話し合い職員の意見を反映させ他介護計画を計画作成担当者がまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア担当者が中心となり、職員間で情報を共有できるようカンファレンスやMCSを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケア担当者が、本人の要望や家族の状況を把握し、ラインや電話で家族への連絡等を行い、2ヶ月に1回天津風だよりを家族に送っている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、家族や地域の方と協力は難しかった。ニーズに応えられるよう努力した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族の希望を聞き、適切な医療を受けて頂いている。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。家族が同行する場合は状態を口頭で伝え結果を確認している。かかりつけ医や専門医でも緊急性のある場合は職員が同行し、結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と連携を図り、気づいた所はすぐに伝え、適切な看護を受けて頂ける様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換をし早期退院できるよう協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時は、家族に連絡をし、これからのについての説明を十分にし、職員の中でも情報を共有している。常にMCSで情報共有している。ターミナル期には、本人の状況の変化に応じて情報提供され、方針が決められている。	契約時に事業所の方針を家族に説明している。状態の変化に伴い早い段階から家族、協力医に相談しながら意向に添えるように取り組んでいる。夜間も含めて看護職員を配置し対応している。コロナ禍でも面会や宿泊することができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故発生時は、責任者、看護師に報告出来ている。訓練は出来ていないが、AEDの講習会は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作り、避難の場所も職員が把握し、役割分担も決め、誰もが対応できるようにしている。	夜間想定を含め月1回訓練を行っている。土砂災害について市に相談したり、自治会にお願いして近くの避難場所への避難の了承を得たりしている。水や食糧、オムツ、簡易トイレなどを備蓄しているが、訓練に住民の参加がなく協力体制が乏しい。	運営推進会議を活用したり、地域へ積極的に情報を発信したりして地域との密接な関係が築けるよう取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉や笑顔で対応できる様に心がけている。トイレ、居室等で対応する時ドアを閉めるように心がけている。	定期的にプライバシーの保護、接遇等の研修を行っている。管理者は、日常的に気付いたことを職員に伝えている。職員は利用者のペースを大切に笑顔で接することを心掛けている。トイレ誘導時は耳元で声を掛けて他の利用者に聞こえないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取り、入居者様の思いを聞き取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の得意分野を把握し裁縫や計算問題、ぬり絵を一人ひとり好きな事が行える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やアクセサリー等、望まれる方は行えるよう支援している。定期的に訪問カットに来て頂き身だしなみもなるべく清潔に保てるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューも入居者様に合うように工夫し、調理の時も、お手伝いしていただきながら会話などをし、コミュニケーションを取っている。	職員から利用者の食べたい献立を募集してレシピ集を作成している。利用者は盆拭きや盛り付け、下調理などを手伝ったり、団子やピザなど一緒に作ったりしている。少しか食べられない利用者には数回に分けて食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ナースと相談し、個人に合わせて必要な栄養摂取が行えるよう水分量も個人に合わせて確保できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後30分経過後に口腔ケアを行っている。本人の能力に応じた介入をし、口腔内の清潔保持に努めている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々に合わせたトイレ誘導の声掛けをしている。	出来る限りトイレでの排泄に取り組んでいる。排泄チェック表でリズムを把握して職員間で話し合いながら自立支援に繋がるように取り組んでいる。夜間も利用者の状態に合わせてトイレに誘導している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を積極的に心がけ便秘の際は便通を促す漢方茶を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの状態や、ADLに合わせて無理なく入っていただけるよう入浴方法を支援し、隔日で行っている。	順番や湯温、時間など利用者の要望に合わせている。急に入浴を希望される場合も対応している。重度化した方はリフト浴で入浴することも出来る。柚子や温泉の素を入れたり、保湿剤やアロマオイルで楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤者は入居者様の就寝時間を配慮し、個別に合わせた就寝介助をする。日中はその方の状態に応じて休息時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別モニタリング用紙に各入居者様の薬、副作用等記入してある為、確認はするが全てを把握できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様それぞれに合った作業を提案させていただいている。一人でやることもあれば他利用者様と行うこともあり、コミュニケーションを取ったりもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ化で外出行事は出来なかったが、近所を散歩したり、外気浴を兼ねて、外のベンチで体操をしたり、今の状況で出来る事に取り組んでいる。	天気の良い日には利用者と一緒に散歩したり、花壇の花を見たりしている。急に外出を希望される場合は職員と一緒に出掛けている。コロナ禍前は利用者から温泉に行きたいと言われて一緒に出掛けたり、花見や喫茶店に出掛けていた。	

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の取り扱いはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことは時々ある。ラインを使って、ご家族とTV電話をし連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な空間と窓から見える景色が四季折々で季節感がある。オープンキッチンやホールも開放的である。	リビングにひな人形やひな祭りの作品、生花を飾り季節を感じられる。加湿器やイオン発生機、空気清浄機を置き、快適に過ごせるように職員は小まめに換気している。リビングの照度を落としてのんびり過ごせる雰囲気である。室内犬が自由に動き回り利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の意思通りに居場所を選べるようにしている。プライベート空間は確保されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さなご仏壇や位牌なども持ち込まれた方もおられて手を合わせたり、思い出の場面の写真など家族の方が配置されたりして、入居者の心の安らぎを演出している。	テレビやタンス、ラジカセなど使い慣れた物を持って来ている。ぬいぐるみや造花など馴染みの者を持ち込んでいる。化粧道具を持ち込み居室で化粧している。仏壇や位牌を置き毎日手を合わせたり、編み物したり自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりにあった安全な環境作りを考え、転倒予防のゴムマットやベッドから足をついた時に作動するセンサーマットをも配置して、事故予防に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野852-1		
自己評価作成日	令和4年1月18日	評価結果市町村受理日	令和4年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2170200642-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝申し送りの時に唱和し共有している。一人ひとり個別ケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人が職員に居たり、以前近くの人が働いていたが、退職した後も庭の手入れをして下さる。散歩のときはご近所さんと立ち話をする。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほぼ活かせていないが、2ヶ月に一度この様子を載せた、天津風便りを地域の回覧板にてのせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在会議はしていないが、書面開催として報告はしてそれに対する意見をいただき、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が行う研修会に参加したり、電話やメールでやり取りして協力関係を築くように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を予防する提示物を貼り、身体拘束廃止委員会で職員に対する研修会も行い、意識してケアにあたるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の標語を施設内に貼り、職員に対する研修会も行い、予防に努めている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、過去には活用できるように支援した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をしっかりと行い、不安等の解決に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの為面会ができない時は、ZOOM面会や電話で状況を伝えたり介護プランに意見を書いて頂き職員間でシェアしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで、意見を話し合い解決に取り組んだり、職員面談をして意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が持っている能力を協議して解決に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には必ずOJTをしっかりと行い、喀痰吸引、リーダー研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナでリモートの勉強会は行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に入居者や家族から話を聞き、その情報をスタッフ間で共有している。その後実際の状況を見ながら再度本人の困っていることを聞き安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査により情報を収集している。その後は電話やラインなどで今の状態や要望などを聞きコミュニケーションを取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査により情報を収集し、その後は歩き回る入居者様は拘束しない様に声掛け、見守りをする等本人の意図を汲むよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中は洗濯たたみ、洗い物など出来る事をやっていただき、本人のやる気を引き出すよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子や思いを家族の方に伝え、ラインを活用して、写真も送り情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防で、面会を中止していたが、家族の方とはライン登録して頂きTV電話でリモート面会実施。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのソファで休んで頂く時は、入居者同士のトラブルに発展しないように職員が間に入り見守りコミュニケーションが円滑に行われる様に配慮し、一人で過ごす時間も大切にしつつ孤立しないようにしている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中に亡くなられた方に四十九日と一周忌の法要にはお供えとして、花を送らせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者様には個別ケア担当者をもうけていて、日々コミュニケーションを取っている又、本人と家族との連携を常に保つように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問をして、家族にこれまでの生活歴を聞き、本人に合う介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリング、アセスメント見直し、カンファレンスで話し合い。より良いサービスを行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、排泄チェック、入浴時の身体の状況のチェック、食事等日々のADLの変化の把握とその情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様に個別ケア担当者があり、本人や家族からの要望などをかなえられる様にし、MCSIにて情報を共有している。医師の意見も参考に介護計画も作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア担当者が中心となり、職員間で情報を共有できるようカンファレンスやMCSを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケア担当者が、本人の要望や家族の状況を把握し、ラインや電話で家族への連絡等を行い、2ヶ月に1回天津風だよりを家族に送っている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、家族や地域の方と協力は難しかった。ニーズに応えられるよう努力した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族の希望を聞き、適切な医療を受けて頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と連携を図り、気づいた所はすぐに伝え、適切な看護を受けて頂ける様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換をし早期退院できるよう協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時は、家族に連絡をし、これからのについての説明を十分にし、職員の中でも情報を共有している。常にMCSで情報共有している。ターミナル期には、本人の状況の変化に応じて情報提供され、方針が決められている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故発生時は、責任者、看護師に報告出来ている。訓練は出来ていないが、AEDの講習会は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作り、避難の場所も職員が把握し、役割分担も決め、誰もが対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉や笑顔で対応できる様に心がけている。トイレ、居室等で対応する時ドアを閉めるように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取り、入居者様の思いを聞き取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の得意分野を把握し裁縫や計算問題、ぬり絵を一人ひとり好きな事が行える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やアクセサリ等、望まれる方は行えるよう支援している。定期的に訪問カットに来て頂き身だしなみもなるべく清潔に保てるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューも入居者様に合うように工夫し、調理の時も、お手伝いしていただきながら会話などをし、コミュニケーションを取っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ナースと相談し、個人に合わせて必要な栄養摂取が行えるよう水分量も個人に合わせて確保できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後30分経過後に口腔ケアを行っている。本人の能力に応じた介入をし、口腔内の清潔保持に努めている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々に合わせたトイレ誘導の声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を積極的に心がけ便秘の際は便通を促す漢方茶を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの状態や、ADLに合わせて無理なく入っていただけるよう入浴方法を支援し、隔日に入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤者は入居者様の就寝時間を配慮し、個別に合わせた就寝介助をする。日中はその方の状態に応じて休息時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別モニタリング用紙に各入居者様の薬、副作用等記入してある為、確認はするが全てを把握できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様それぞれに合った作業を提案させていただいている。一人でやることもあれば他利用者様と行うこともあり、コミュニケーションを取ったりもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ化で外出行事は出来なかったが、近所を散歩したり、外気浴を兼ねて、外のベンチで体操をしたり、今の状況で出来る事に取り組んでいる。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の取り扱いはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことは時々ある。ラインを使って、ご家族とTV電話をし連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な空間と窓から見える景色が四季折々に季節感がある。オープンキッチンやホールも開放的である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の意思通りに居場所を選べるようにしている。プライベート空間は確保されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さなご仏壇や位牌なども持ち込まれた方もおられて手を合わせたり、思い出の場面の写真など家族の方が配置されたりして、入居者の心の安らぎを演出している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりにあった安全な環境作りを考え、転倒予防のゴムマットやベッドから足をついた時に作動するセンサーマットをも配置して、事故予防に努めている。		